

中小建設会社における安全診断事例

労働安全コンサルタント 檻 本 輝 雄

1. はじめに

平成3年3月、3度目の挑戦でやっと労働安全コンサルタント（土木）の試験に合格する。

当時、私は設備会社である新菱冷熱工業株式会社の安全管理者として、横浜ランドマークタワーの建設現場に従事していた。これからが最盛期を迎えるようとしていた頃であり、取得した資格を磨くには申し分のない絶好の機会であった。

早速、登録を済ませ東京支部業務部会に入会する。独立準備へのスタートである。

平成6年4月、自分の今後の人生は、「労働安全コンサルタント以外に絶対ない」と決め、30年間勤務した会社に感謝の念を持って早期退職、開業をする。53歳である。

含蓄ある社のスローガンは、今でも大切にして講演の際に拝借させてもらっている。

「安全なくして 企業なし
安全なくして 作業なし」

平成7年9月、コンサルタント会東京支部から
株式会社村上工務店の安全指導の紹介を受ける。

爾来、今まで4年以上も続いている。以下、悪戦苦闘した歳月を事例として紹介する。

2. 会社の概要と経営者の方針

まず、会社の概要を紹介しよう。

業 種 建設業

マンションの建設、元請工事のみ

社員数 26名

所在地 東京都大田区西糀谷4-20-12

私の依頼をするにあたって、村上明社長から次のようなことを話された。

「創業以来今日まで、わが社は、大きな労働災害を幸いにも起こしていない。これは、とても誇りである。しかし、見方をかえると、災害という『結果』が生じなかっただけに過ぎない。結果がよかつたからこれでよい。これで本当に安心出来るのだろうか？」

「すべての災害には、必ず『原因』があり、それに条件が加わって『結果』が生じる。決して偶然ではない。企業として仕事をする以上、災害は存在する。大切なことは、災害につらなる『条件』を取り除くことである。」

我流に言い換えてみると、「災害は存在する。だから、災害となる要因を洗い出して、そのリスク（発生の可能性と結果の重大性の組合せ）を最小にすること」である。

3. 工事現場パトロールの印象

初めての現場パトロールの印象を要約する。大変感心したのは、協力会社を含めた年間現場パトロール計画を編成して、毎月一回確実に実施していること。その記録を毎月機関誌として発行し、社員の家族や郷里に配布していることである。もちろん現在も継続中である。

しかし、指摘・指導事項として、

- (1) 安全衛生推進者を知らない。
 - (2) 社員のヘルメットが、飛来・落下用である。
 - (3) 足場の組み立て等作業主任者の選任、表示がない。無資格の状態である。

- (4) 毎月の協議会は実施していない。
 - (5) 新規入場者教育は実施していない。
 - (6) 協力会社の安全衛生書類がない。
 - (7) 作業指示の記録がない。

現場を見ると、

- (8) ケーブルが2芯の投光器、しかもヘッドカバーがついていない。

(9) そして、一番びっくりしたのは大きく口を開けた「開口部」の放置である。等々。

概ね想像していたとおり、これが中小ゼネコンの実態？と解釈する。無理もない。労働安全衛生法の解釈と運用を、誰も教えてくれないからである。事業者が安全を真剣に考える所以である。考えてみれば、偉そうに言う私自身もかつてはそうであった。

4. 安全教育は対話から

作業終了後、それぞれの現場におけるパトロール報告と社員の対話から始める。本音が聞ける貴重な場である。共通した問題として、

- (1) 自分は、経験が浅いのでつい黙ってしまう。
 - (2) 注意しても聞いてくれない。逆に注意される。
 - (3) 分からないのでどうしても下請任せになる。
 - (4) 工期の件もあるし、つい安全に触れないでごまかしてしまう。などである。

労働安全衛生法の30条「特定元方事業者の構すべき措置」の必要性を理解させるために、次の3つの目標を定めた。極力会社を含めた安全大会や安全衛生協議会で機会あるごとに説明をする。

- (1) 安全衛生協議会を毎月開こう。
 - (2) 新規入場者教育を記録に残そう。
 - (3) 毎日の作業指示をして、サインをもらおう。

労働安全衛生規則13条の3第2項によると、労働安全（衛生）コンサルタントは、事業場に専属でなくても、「安全衛生推進者」になれることがある。今日までそういう立場にたって指導をしている。

5. 労働安全コンサルタントによる診断？例

- (1) 平成9年2月、指導をして1年半の歳月が流れれる。3つの目標に対する理解、浸透など安全

衛生に関する意識も次第に高まって行くようと思える。私自身、妙な妥協をしてマンネリ化していないか？大切な見落としをしていないか？別な眼で見てもらう必要性を感じる。

3月15日（土）同僚の安全コンサルタント植田章嗣、佐藤登、中島正才、平松昭則の4先生と社会保険労務士・小室文菜先生、計5名による下記現場の診断・指導を受けることとする。

現場名 松一(まついち)

マンション新築工事

所在地 東京都大田区西糀谷2丁目

規 模 RC5F 共同住宅

建築面積 335m² 延べ床面積1,277m²

工 期 平成 8 年 10 月 10 日～

平成9年7月30日

進捗状況は、4F建て込み中

現場員 平岡所長、大神、飯田

指摘事項

全体的には好印象を与えたようである。同時に忌憚のない指摘も挙げていただく。

- ① 分電盤の近くに仮設水道はよくない。
 - ② 開口部のトラロープ養生は、手摺の代わりにしないこと。
 - ③ 官庁提出書類は個人のファイルにしないこと。
 - ④ 持ち込み機械の点検が不備なこと。
 - ⑤ 分電盤に接地抵抗の記録を振り付けること。
 - ⑥ 施工体制台帳をまとめること。
 - ⑦ エレベーターシャフトは蓋をしてあるが、その上に物は置かないこと。
 - ⑧ 型枠解体、組み立て中の時は、パトロールでも「立ち入り禁止」にすること。
 - ⑨ タワークレーンを操作する位置（上階と地上の連絡）が悪いこと。
 - ⑩ 型枠支保を固定後に上階作業を行うこと。

社労士また女性の眼からは、

 - ⑪ 作業員の出勤簿は管理が不十分であること。
 - ⑫ 作業員(特に女性)の着替えができないこと。
 - ⑬ 工程表の休日が不明確であること。

指摘への反省と対策。本診断を契機にその後、

休日に現場を診断指導してもらった時的小野君の話である。質問に窮し、つい「ボクはまだまだ半人前ですから……」

「現場に出る以上、半人前では困る。いい加減な作業指示でよいのか？ それが災害になるのだ。自信をもって指示をしなければ駄目だ」後日、「本当に眼がさめた」と。

9月、会社の安全大会の席上、創設された「社員賞」の第1号に小野君が選ばれた。本当の一人前である。

8. 経営者の含蓄ある言葉

少し遡るが、平成10年9月、会社の安全大会が終了した後、社長の言葉である。

- (1) 社員は、現在26名である。『1/26』と『26/1』は、どう違うか考えてほしい。これは大変な違いである。前者の考えでは会社を駄目にしてしまう。後者の気持ちで真剣に安全を考えてほしい。

2) 災害が発生した建物は、オーナーに引き渡せない。自分がオーナーだったら引き取らない。

- (3) 「安全とは、勇気と、根気と、真心の結集である」

安全コンサルタント以上に、経営者は「安全」を熟考している。

9. おわりに

村上工務店社員の安全のレベルは、安全衛生協議会の開催に見られるように確実に進歩している。

今後の取り組みとして、昨年4月公表された、労働省告示「労働安全衛生マネジメントシステム」の運用である。17条からなる条文で、要旨は、P→D→C→A繰り返し実行することある。

「条文に合わせるのではなく、今現在やっていることを、条文で確認する」を今後、これを実行したいと思う。

優良診斷指導事例審查結果

昨年も申し上げたことありますが、労働安全・衛生コンサルタントが事業場の診断、指導を行うにあたっては、専門技術者としての知識と経験に基づいて、事業場の抱える問題点を分析し、最善の改善策を提供しなければなりません。すなわち、診断の出発点として、過去に災害の発生した事業場の安全診断の場合には、災害の直接原因（起因物に内在する不安全状態と事故に結びついた不安全行動）、間接原因（不安全状態と不安全行動が取り除かれなかった管理監督上の欠陥）、基礎原因（管理監督上の欠陥が生じても是正されなかった理由）を、特に災害が発生していない事業場の安全診断では潜在的な災害要因を徹底的に掘り起こす。また、有害業務のある事業場の衛生診断では、原材料の危険有害性、設備レイアウトとプロセス・フローチャートの分析に基づく有害物発散の危険性や反応危険性、設備からのリークの危険性、

作業者のばく露の危険性などの健康阻害因子、特に有害業務の無い事業場の衛生診断の場合には、職場環境、作業姿勢等の身体負荷、シフトや労働時間等の作業態様などに潜む健康阻害因子の摘出が必要です。十分なリスクアセスメントが無ければ、形だけ如何に立派な管理体制(マネジメントシステム)を構築しても効果は継続しません。労働安全・衛生コンサルタントの診断指導は、十分なリスクアセスメントに基づいて、科学的に根拠のある最善の改善策を提供して頂きたいと思います。特別安全衛生診断やKSDの委託診断でもしばしばこの点が不十分な報告書が見受けられることは残念です。

今回応募された4編の事例のうち、前述のような観点から下記の1編を入賞としました。

(沼野雄志)

☆粘着紙等製造工場の安全衛生診断指導事例☆

坂口 繁一（兵庫・保）